

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 2491000077 | | |
| 法人名 | 有限会社 福祉オフィス中村 | | |
| 事業所名 | 海岸通り グループホーム南風 | | |
| 所在地 | 三重県尾鷲市新田町21-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 30年 11月 17日 | 評価結果市町提出日 | |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosvoCd=2491000077-00&PrefCd=24&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成 30年 12月 6日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的かつ開放感のある環境の中で、個々の有する能力に応じてゆったりとした生活が送れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設から7年が経過し、管理者・職員の交替等により事業所の運営を軌道に乗せる為、全職員が一丸となって様々な努力をしている。利用者第一に利用者の目線で支援に取り組み、居心地の良い家作りを目指し、利用者・家族・職員間の信頼関係を構築しながら着実に地域の中にも繋がりや協力関係が広がっている。外への関心を持つ利用者には、管理者の方針で「意味ある事は取り入れよう！」と職員にも呼び掛け、交替でドライブへの外出支援を実行している。ドライブスルーの買物体験を喜ばれる利用者や家探索と称して利用者の案内で家探しへ行き、本人は見るだけで満足して事業所へ戻ったりすることが意味が有る事だと納得したり、今後も利用者の目線で考え、取り組む努力を続けて行く方針である。訪問時にお茶の接待をされた利用者の、自然で和やかな大変に優しい表情と雰囲気を感じられた。一人ひとりの利用者に寄り添い、日々の介護支援に取り組む信頼関係の絆が強い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念、事業所の目的を定期的に会議の場等で理解し共有している。また、新人研修の場においても丁寧に説明を行っている。 | 開設当時より事業所の目的とする文言を理念とし、会議や新入職員研修でサービスの実践に繋げて行ける様に意識付けし共有している。理念は案内文書と共にカウンターに置かれ、掲示はされていない。家庭的な玄関インテリアを配慮する方針によるものである。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の催し物等は減りつつあるが、日常的な近隣住民との関わりがある。先日は、利用者家族の町の子ども達の手踊りを披露しに来てくれた。 | リビングの窓全面に朝顔のネット掛け作業を近所の方が夫婦で手伝ってくれたり、事業所内で「蕎麦打ち教室」をしてもらう機会や、年末には「門松」作りの見学等、暮らしの中で地域の方と利用者の触れ合いが多い。又「くろしお学園」より毎週空缶回収や体験学習に来て貰ったり、利用者との交流の場が作られている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域に向けた研修等は行っていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開催。サービスの実際や利用者の状態、事業所の取り組み等を報告している。委員からの意見は毎回多く出され、サービス向上に行かしている。 | 推進会議は2か月に1回開催され、参加メンバーも安定している。会議参加メンバーの地区老人会より、「趣味の作品展」への出展声掛けにより、利用者の作品作りや展示見学へと、利用者の意欲向上に活かされている。事故報告にも発言や返答が活発で、「一番近い地域の意見」として捉えている。議事録のポイントや纏め方の工夫も検討している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議での意見交換に加え、その都度法制度等について教示してもらっている。 | 市や包括支援センターより案内の研修参加や、認知症家族の会への参加を行なっている。市への協力を求める事や、事業所の現状の声を届ける等の取り組みを行なっている。認知症カフェへの取り組みも今後検討をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 内部研修等を通して身体拘束について正しく理解できるよう努めている。玄関は夜間以外は施錠しておらず出入りが自由に出来るようになっていく。日々スピーチロックについても職員間で確認し合っている。 | 身体拘束については内部研修や会議の場で、工夫や取り組みへの話し合いをしている。特に「スピーチロック」については、意見を出し合い理解を深めて、日々の支援に努めている。 | 「身体的拘束等のさらなる適正化」を図る為、委員会を設置され3か月に1回以上の開催と、職員への周知徹底される事を期待する。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | マニュアルを作成し、内部研修等で職員間の理解を深めると共に、職員の介護負担の軽減を図れるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 年に1度内部研修で学ぶ機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 分かりやすい言葉を選びながら、丁寧な説明を心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 全職員が家族との関わりを大切にしており、自然な雰囲気の中で意見、要望等が聞けるように努めている。 | 面会時、職員より家族への声掛けや丁寧なコミュニケーションを図る事を続け、以前より家族との会話が増え利用者との面会時間が長くなっている事を前向きに受け止めている。家族との信頼関係を更に築きながら、意見や要望が発言して貰いやすい機会作りに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回以上の会議、日々現場での意見交換、要望等を元に運営に反映出来るように努めている。 | 月1回職員全体会議が有り、意見交換や提案を事業所は受け止めている。更に管理者は年に1度の個人面談では、個々の悩みや要望等、職員の向上心への配慮の面にも対応している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすい環境に配慮し、日々意見交換を行っている。労働時間の適正化を計りストレスの少ない条件下での労働になるよう環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 認知症実践者研修や外部から講師を招いての介護技術の研修、外部の研修で個人が習得した事を内部研修等でも活かしている。職員一人ひとりの熟成過程を把握し、働きながらトレーニングを進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他事業所の運営推進会議に出席させていただいている。意見交換、活動、事例等を参考にしサービスの質向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | できるだけ自然にコミュニケーションを図り、本人の意向や、身体の状態に添ったサービスが提供出来るように努めている。日々安心した生活が送れるよう関係づくりにも配慮している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族と利用者の関わりを理解し、重視している。家族の思いや要望等、しっかりと聞ける環境を整え、適切な支援ができるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者の状況を把握し、家族とも相談の上現時点で必要なサービスが提供出来るように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人としての関わりを大切にし、家族に近い関わり方、支援に取り組んでいる。自然に役割を持ってもらい楽しみながら共同生活が送れるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者と家族双方の想う気持ちに寄り添い、関係や絆が継続していけるような役割が担えるよう考えながら、職員、利用者、家族の関係性や関わりを大切にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 可能な限り地元の祭りや催しに参加している。外出も含めて馴染みの人や場所との関係が切れないように努めている。家族との外出や外泊も自由にしてもらっている。 | 近所で顔馴染みの方々が気軽に立ち寄られ、良好な関係が築かれている。お盆・正月には、家族との旅行や外泊をする利用者も居る。行きつけの美容室への外出も利用者の思いを第一に支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士が関わり合いながら共同生活していく中で利用者同士の関わり方を把握し、互いが尊重し合えるような機会を設けサポートしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 施設の催し物等に声をかけ、気軽に相談や立ち寄れる環境づくりに努めている。採れた野菜を届けてくれるなど関わりが継続している方もいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者との関わりを大切に、意向を把握する為極力決め付けないようにしながら支援している。職員間で話し合いその都度検討している。 | 利用者本人の思いを第一に、職員は個々に寄り添う時間を大切にしている。そこで把握出来た利用者の言葉や表情は記録に残し、全職員が情報を共有できる様にしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者本人、家族からの情報を元に生活歴を把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 開放的で自由な時間が多く持てる環境を整え、ストレスの軽減を図りながら見守る支援をする中で現状を把握し職員間で共有している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者との関わりの中で得た情報を元にスタッフ間で意見を出し合い作成している。 | 日常的に利用者に関わった情報は、詳しくファイル化されており、モニタリングでの見直しや気付きには、柔軟な対応が出来ている。利用者の視点に立って、生活上での変化や家族からの聞き取り、専門的な助言が反映出来る様、介護計画は作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子など記録に残し職員間で共有しやすい様に努め、介護計画や日々のケアの見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者、家族の意向や状況を重視し柔軟な対応を心がけている。その時々必要性を考えた上で、サービスの多機能化に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣住民との日常的な関わりが継続出来るように努力しながら、開放的な環境で自由に生活が出来るよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 適切な医療を受けられるよう利用者、家族、主治医との関係を築いていけるよう努めている。基本的に入所前からの主治医の所に通っている。 | 2名の利用者以外は入居前からの主治医へ通院している。夜間緊急時は協力医への連絡や指示受け入れも可能である。又ボタン1つで119番通報にて火災か、利用者急変かを伝え敏速な対応マニュアルが徹底されている。家族からも医療面での安心の声が聞かれる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医の指導や法人内の看護師と意見、情報交換を行いながら連携を図っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院担当のケースワーカー、担当の看護師と情報交換を行い、利用者が安心して治療を受けられるように配慮している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、又はその都度話し合いをし、事業所でできる範囲の事を説明している。本人、家族の希望があれば看取りを行っていく方針で、協力医の了解も得ている。 | 開設時より重度化や終末期を支えていく事業所方針を掲げているが、現在迄に看取りは行っていない。又予防的な生活方針のもとで、利用者の健康状態が比較的良好である。協力医にも恵まれ、本人・家族の看取りへの希望があれば、事業所が対応出来る最大のケアに努める説明を行なっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを作成し、職員全体で共有している。見直しと訓練が必要である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回定期的に防災訓練を実施している。近隣住民の協力も得ており、訓練中も屋外に出て訓練の様子を見てくれている方もいる。 | 年2回防災避難訓練を実施している。近隣住民へ職員が直接訓練を知らせに行き、実際に事業所から外へ利用者を誘導して貰う訓練を実施した。現場は慌てた状況で有ったが、貴重な経験として地域との協力体制を築いている。備蓄品は倉庫に備えているが、ヘルメットが不揃いの為、今後整備を進めていく予定である。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員全体で基本的な人との関わりを意識して、特に言葉遣いには注意している。個人情報取り扱いも厳重にしている。 | 言葉遣いや名前の呼び方は気を配り、○○さんと呼んでいる。事業所内の書類や文書等の保管は扉付きに収納し、基本は鍵付き収納で個人情報を大切に扱っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 可能な限り自己決定が出来るよう支援に取り組んでいる。思いや希望を言葉で表現する事が困難な場合でも、様々な事を参考に本人の思いに添えるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その都度、個人の動きに合わせて職員側の動きも変えていけるように努力している。自由な空間が維持出来ていると思う。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 清潔感のある身だしなみを基本にし、利用者の好み合わせたおしゃれができるように支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 可能な限り買い物から食事準備まで職員と利用者一緒にしているが、食事準備は偏りが出てきている。 | 朝食は夜勤者が作り、7時から10時に利用者が自由な時間に起床し食べる姿を見守っている。昼は利用者と職員が同じ昼食を一緒にテーブルで、全員が箸を使って自立され、職員と楽しく会話しながら食べるのが日課である。お菜の取り分け、配膳は2～3名の利用者が活躍している。食材買物は近くのスーパーへ職員と出掛けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は内容のバランスの良さ、それぞれにあった量の提供を心がけている。朝食は起床後一人ひとり摂って頂いており、水分量は夜間の水筒の準備も加え少し多めに提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 可能な限り自分でのケアを行い、出来ない部分をサポートしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中はトイレでの排泄を気持ちよく行えるように個別に支援している。日々排泄のチェックをし習慣把握に努めている。 | 基本はトイレ誘導で、排泄の自立支援に努めている。夜間のみオムツの方が2名、完全自立者が2名であるが、継続が出来る様声掛けや見守り支援を大切にしている。便秘傾向の方は、主治医より下剤処方や水分調整等、工夫を重ねる支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝ヨーグルトと牛乳を提供し、野菜の多い食事の提供をしている。個別に水分量を調整したり、運動での働きかけも行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 日や時間帯は決めておらず、ほとんどの利用者が毎日入浴している。 | 1年を通して基本は毎日が入浴日で、殆どの利用者が毎日入浴している。拒む利用者には、セラピー犬を連れてきて「可愛いね。」と脱衣室へ誘う事でスムーズに入浴される事も多い。季節に合わせて、菖蒲湯や入浴剤で楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動から安眠につなげる事が出来ている。日中もその時々に応じて休めるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋を正確に管理し、職員間で共有している。服薬管理を徹底し本人に合った服薬方法を模索しながら行っている。症状の変化については、医師、薬剤師と連携して対応している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれの嗜好に添った物を極力提供している。その時の要望に合わせて活動し気分転換にもなるよう努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物、ドライブ、散歩など定期的に外出は行っているが、あまり要望はない。家族との外食、外泊をされる利用者もいる。 | リビング前のエントランスで、外の景色を見ながら歌を歌ったり体操をしたり、外の空気を吸って気分を変えることを日課としている。健脚の方は玄関から外へ坂道を下りて、職員と一緒にゴミ出しに出掛けている。買物やドライブ支援の回数も増えて、利用者全体に活気が現れている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の理解があれば、本人の希望に応じて所持して頂いている。各自の買い物では極力自分で支払いしていただく支援もしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話連絡は自由にしている。意思疎通が困難な利用者に対してもお礼などの電話も職員がサポートし行っている。その時期に応じてはがきを出す支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔感を保ちながら現在の利用者に配慮した配置にしている。自然光をしっかりと入れながら、不快な刺激がない様に配慮している。季節感のある飾りは利用者で作成している。 | リビングの大きなガラス窓がはめ込み式で、安全で開放的な大変明るい誰もが集まる窓辺である。廊下にはこじんまりとした木製ベンチが3台置かれ、利用者が座って洗濯物を畳んだり、お喋りをしたり憩いの場にもなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | いくつかのパターンでホールが使えるように配置を工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は本人、家族と相談し配置を決めている。家具も使い慣れた物を置いている利用者もいるが、利便性を考えて新しい物を持ってこられる方も多い。それぞれの好みを活かして工夫している。 | どの部屋も綺麗に片付けられ、家具が使い易く配置されている。畳が敷かれた部屋もあり、落ち着いて自由に過ごせる様で、足元も安全に感じられる。各部屋のドア前には暖簾が掛けられ、利用者の目線の高さに合わせた位置に名前表示が貼られた部屋もあり、利用者に配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 風呂場やトイレには大きな表記をし自然に使えるような工夫をしている。生活の動線をしっかりと作りながら、あまり物を置きすぎずわかり易いように配慮している。 | | |